

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/ashikaga/nc2>

SSH講演会「だれが火の玉を見たか?!」

10月30日に本校第一体育館において早稲田大学名誉教授大槻義彦先生によるSSH講演会が行われ、「だれが火の玉を見たか?!」という演題で1学年対象に講演をして頂きました。

科学者になろうとしたきっかけである小学生時代にみた火の玉の話や、その火の玉の謎を解明しようと小学校の中村先生に質問し、その先生が東北大学の先生方に火の玉について聞いて回ってくれたこと。結局いろいろな研究者に聞いて回っても火の玉の謎はほとんど分からなかったことや、火の玉の謎を解



明しネイチャーに論文が掲載されたことや、数学に興味を持ち中学3年次に大学の数学の教科書を見て学問の厳しさを知ったことや、イギリスの文系の大学院の厳しさなど誰もできなかったことを世界で初めて自分ができたときの研究者としての陶醉感などについて講演していただきました。また、文系、理系についてもいろいろ話をして下さりました。足高の皆さんもいろいろな分野に興味をもった時に、その道を究めるために何をすべきか、多くのヒントが先生の講演の中に多く含まれていたことと思います。

生徒感想

- ・ 大学に入ってからが本当の勉強の始まりであることが分かった。自然科学の大発見をすることはとても大変であり、懸命に努力しなければならないと思った。どの教科も頑張らなければいけない。
- ・ もっと勉強を頑張りたいと思った。大学に入学することを目指していたが、その先も考えてみようと感じた。
- ・ 教授は中1で高3までの数学を終わらしたらしいので、最初は天才かと思ったがそうではなく、疑問に思ったことを素直に恥ずかしがらずに質問したことにより知識をつけた努力の人であることが分かった。また、大学の講義の内容を聞くことができたので良かった。
- ・ 大学の学問がいかに難しいか知ることができた。自分も大学へ行くのを目標とするのではなく、大学へ行って何をするのか良く考えようと思った。
- ・ 大学に入学することがゴールではないことを忘れないでおきたい。
- ・ 教授の勉強方法が大変参考になった。
- ・ 意識を高くもつことがとても大切だと分かった。
- ・ 海外の大学と日本の大学との違いが分かりためになった。

SSH講演会「プレゼンテーションに関する講話・演習」

10月29日（水）の6・7時限目を利用して、帝京大学宇都宮キャンパス 横山明子教授にプレゼンテーションに関する講話・演習を行っていただきました。まずはじめに、プレゼンテーションとは、相手に情報を送る技術であり、発表対象を意識しながら構成を考えるというプレゼンテーションの基礎から確認を行い。生徒たちは、ともしれば自らの研究に気をとられてしまいがちな自分の様子を省みたようでした。

続けて、グループ討議を行いました。グループごとにどのような人たちがプレゼンテーションの対象になるかを想定し、彼らが持つ知識や興味があることを想像し、自分たちの発表に関心を持ってもらえるようなプレゼンテーションにするため、



自らの研究のどの部分を重点的に伝えるか考えていました。後半では、それらの内容をパワーポイントにおいてどう表現するかを考え、自分たちがしてきた研究内容と推したいポイントをスライドにおいて如何に表現するかを、全員で付箋を活用しながら行っていました。パワーポイントによる発表資料作成は、生徒たちだけでやらせると個人作業になりがちですが、付箋を使い全員が意見を出し合うことで活発に活動していました。



生徒感想

- ・プレゼンテーションは単に発表ということではなく、相手に自分を伝えることだと思った。
- ・今後の発表の方法や心がまえ、テクニックを学ぶことができた。
- ・とてもわかりやすかった。これからのまとめ作業に役立てたい。
- ・聞き手に理解してもらうためのプレゼンテーションについて学べた。



- ・今まで自分の中であやふやだったプレゼンテーションについて理解ができた。
- ・プレゼンテーションの質を上げたいと思った。
- ・どのようなプレゼンが有効なのか、デザインによって相手に与える印象など大切なことが良く分かった。これから、作成するスライドの参考にしたい。
- ・プレゼンによって自分達の意見をどのように伝えればよいのかつかむことができた。
- ・実習を通じて内容を理解することができた。